

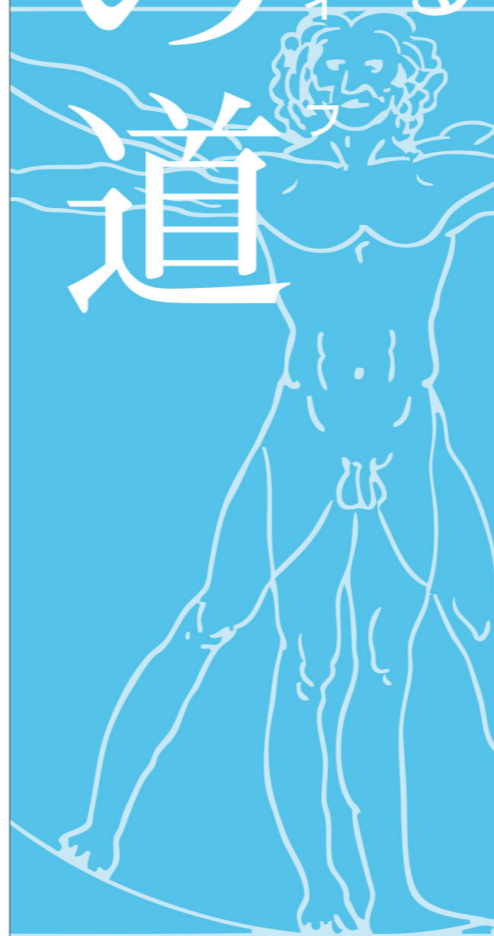


新潟大学医学部医学科

〒951-8510
新潟県新潟市中央区旭町通一番町757
TEL 025-227-2015
URL <https://www.med.niigata-u.ac.jp/>

NIIGATA
UNIVERSITY FACULTY
OF MEDICINE

新潟から始まる
キャンパスライフ
医学への道



2025
新潟大学
医学部医学科
案内

NIIGATA UNIVERSITY FACULTY OF MEDICINE



新潟大学旭町キャンパス
中央の高い建物が医歯学総合病院の病棟、その奥が医学科。
手前のヘリポートのある建物が外来診療棟。

【表紙の写真について】

— 新潟大学構内で育つヒポクラテスの木 —

医聖ヒポクラテスとその下で弟子達に医の教えを説いたとされる木の實から発芽したもので、現在、海を越え、この新潟の地で大きく育っています。

医学を通して人類の幸福に貢献する



新潟大学医学部長
医学科長
佐藤 昇

医学科志望の皆さん、「新潟大学医学部医学科内」をご覧くださいありがとうございます。

新潟大学医学部医学科は、教育理念である「医学を通して人類の幸福に貢献する」に基づいて、医師、医学研究者の育成に努めており、入学者に以下の能力を求めています。

- 高等学校卒業レベルの基礎学力を十分に有する
- 医学を学ぶ上で重要な科目への高い理解力と応用力を有する
- 良き医療人・医学者になるための強い学習意欲と科学的探求心を有する
- 協調性に富み、豊かな教養と人間性を有する
- 広い視野を有し、積極的に行動できる

また上記の教育理念を達成するために、医学科では卒業時に獲得すべき能力として、(1)コミュニケーション、(2)医学の専門的知識、(3)倫理観と人間性、(4)診療の実践、(5)保健・医療・福祉への貢献、(6)地域医療と国際性、(7)リサーチマインド、(8)自己研鑽・生涯学習、の8つの学修成果を設定しています。これらを獲得するために、共通教育科目と専門教育科目を体系的に編成しており、能動的学修(アクティブラーニング)の機会を全学年で設けています。また先端医学、社会的要請、国際基準に対応する教育課程を実施

しています。

本学医学科は、1910年(明治43年)官立新潟医学専門学校として創立されたのが母体となっています。当時の理念は「医師の養成は、専門学校を以て満足すべきにあらず」であり、その精神は現在にも受け継がれています。カリキュラムでは長期間医学研究に従事する医学研究実習が設けられています。また専門診療科の実習に加えて、地域医療実習や総合診療の実習など患者さんを総合的に診る実習も用意されています。同時に国際性を高めるために、欧米はもちろん、インドネシア、タイ、スリランカ、マレーシアなどアジアの国々との医学・医療交流も活発に行っています。さらに欧米やアジアでの医学研究実習、英国等における臨床実習などの機会や、これらの活動に重要な医学英語プログラムも用意しています。

本学は、2013年(平成25年)に日本で最初に医学教育分野別評価トライアルを受審し、2017年(平成29年)に正式認定され、2022年(令和4年)には2回目の医学教育分野別評価の認定をされました。本学の医学教育が国際水準を満たした質の高いものであることが認証され、これにより米国で医師として活動するための資格試験の受験資格を得ることができます。

本学で学ぶことで将来は、臨床医、研究医、医療行政官など様々な分野に進むことができます。また、地域から世界各国まで幅広く活躍するフィールドを求めることができます。

信濃川と阿賀野川が造る自然豊かで実り多い越後平野に位置する新潟は、日米修好通商条約により開港した5港の一つを有し、古くより海外との交流が行われてきた歴史を持ちます。四季の自然が豊かで、食べ物もお酒も美味しいところです。新潟大学医学部医学科の恵まれた環境で、最先端の医学を学び、充実した学生生活を送りながら、医学を通して社会に貢献できるよう切磋琢磨していただきたいと思います。

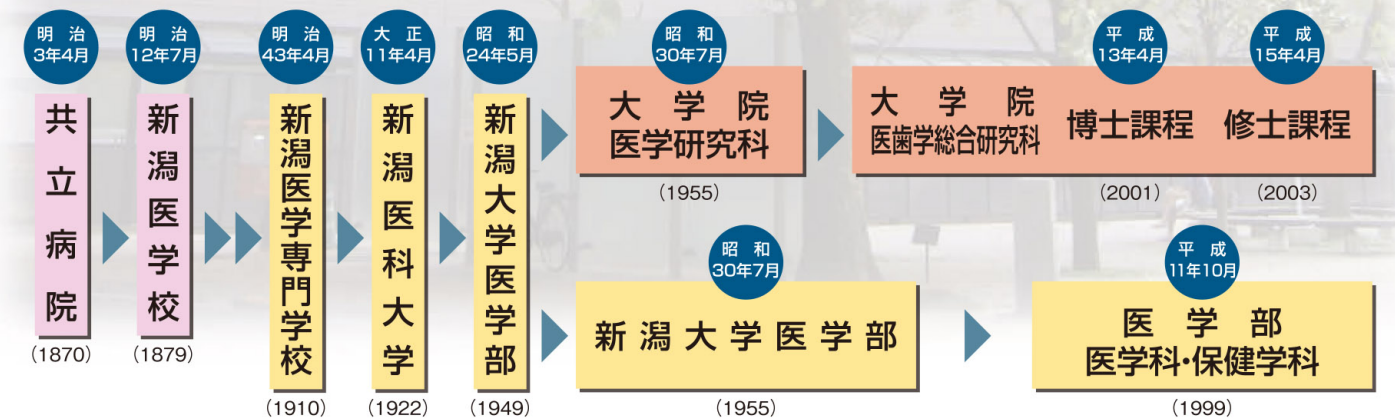


新潟医学専門学校当時(大正時代)



現在の医学部医学科

医学部の歴史



医学への理解と自らの夢を大きく育む新しいカリキュラム

新潟大学医学部医学科は、国際基準に準拠した先端的教育カリキュラムを実施しています。

医学部医学科の教育目標

1. 豊かな人間性と高い倫理性を備え、全人的医療に貢献できる人材の育成
2. 高度の専門性を持つ医療チームの一員として貢献できる人材の育成
3. 広い視野と高い向学心を有する医学研究者・教育者となり得る人材の育成
4. 保健、医療、福祉、厚生行政に貢献できる人材の育成
5. 地域の医療に貢献するとともに、国際的に活躍できる人材の育成
6. 探求心、研究心、自ら学ぶ態度を生涯持ちつづける人材の育成

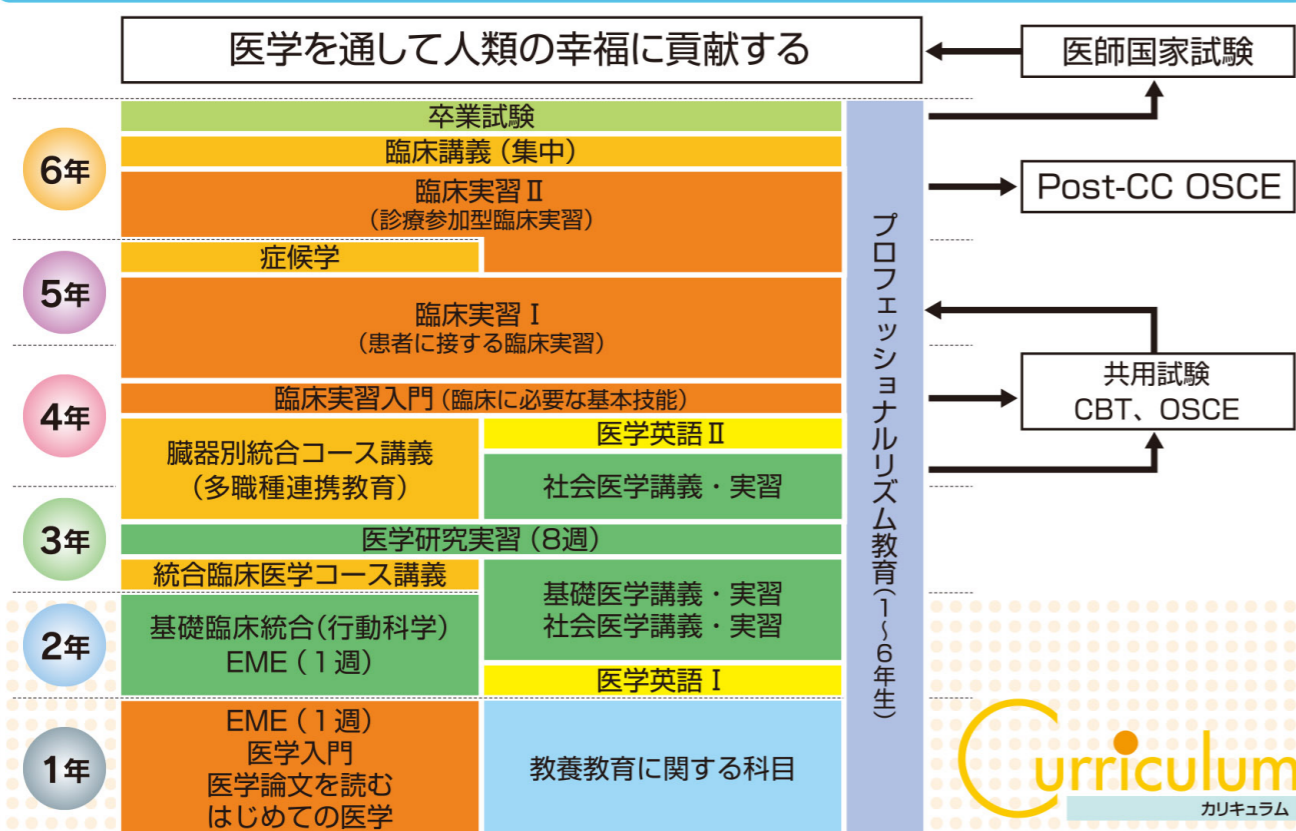


アクティブ・ラーニング(1年生)



臨床実習に臨む学生に白衣を授与する白衣式(4年生)

新潟大学医学部医学科 新カリキュラムの骨子



[用語]・EME(Early Medical Exposure):早期医療体験実習・CBT(Computer Based Testing):コンピューター試験
・OSCE(Objective Structured Clinical Examination):客観的臨床能力試験・Post-CC OSCE(Post-Clinical Clerkship OSCE):診療参加型臨床実習後 OSCE

新潟大学医学部医学科のアウトカム

医学科が掲げるアウトカムは次のようなものです。卒業時に獲得している能力を示しました。

I コミュニケーション

卒業生は：
患者・家族及び医療従事者間で適切なコミュニケーションをとることができる。

1. 患者・家族、医師及び他医療職種間と良好な関係を形成し、正確な情報の収集・伝達ができる。
2. 患者・家族に傾聴、共感、支持的態度を示し、適切な診療ができる。
3. 英語を用いて患者と基本的なコミュニケーションをとることができる。

II 医学の専門的な知識

卒業生は：
以下の医学に関する知識を有し実践に応用できる。

1. 各臓器の構造と機能
2. 心理・行動
3. 病態生理
4. 診断と治療
5. 疫学
6. 医薬品と薬理作用
7. 医療機器
8. 医療行政
(予防/保健/福祉/医療)
9. 医療経済

III 倫理観と人間性

卒業生は：
患者・利用者の価値観や背景を理解し、個別性を尊重できる。プロフェッショナルにふさわしい倫理観をもち、礼節ある態度を示すことができる。

1. 法的責任・規則を遵守できる。
2. 患者中心の視点を持ち、利他的、共感的に対応できる。
3. 多様な価値観や文化的背景を理解し患者・利用者の個別性に配慮できる。
4. 患者・利用者に対して正直、誠実であり、礼儀正しく振舞うことができる。
5. 研究・医療倫理、医療安全、守秘義務、説明責任を理解し実践できる。

IV 診療の実践

卒業生は：
基本的な診療を指導医の監督下で実践できる。

1. 基本的診療と手技ができる。
2. 診断と治療に必要な検査を選択し、データを解釈できる。
3. 適切な診断ができる。
4. 適切な治療計画が立てられる。
5. 診療記録を適切に記載し、プレゼンテーションできる。
6. チーム医療の重要性を理解し、安全な医療を実践できる。

V 保健・医療・福祉への貢献

卒業生は：
保健・医療・福祉に関する制度や業務を理解し、その改善に貢献できる。

1. 疾病の予防に貢献できる。
2. 患者への健康教育を実践できる。
3. 地域の保健指導を実践できる。
4. 検診、スクリーニングの重要性を理解し実践ができる。
5. 厚生・行政の概要を理解し役割を果たすことができる。
6. 社会福祉、保険制度を理解し実践できる。

VI 地域医療と国際性

卒業生は：
国際的な視野をもちつつ、地域の実情に合った医療を実践できる。

1. 地域の実情(伝統や風習)を踏まえた地域医療を実践できる。
2. 語学に堪能で国際的な視野をもって行動できる。
3. 国際保健に関心をよせ情報収集し、課題解決に取り組める。
4. 海外の学生と積極的に交流できる。

VII リサーチマインド

卒業生は：
基礎・臨床研究に興味をもち、自ら問題を発見し、論理的思考で問題解決をはかることができる。

1. 基礎・臨床研究に興味をもち、研究に取り組むことができる。
2. 自ら未知・未解決な問題を発見し、論理的思考により研究を推進し、問題解決できる。
3. 研究についてプレゼンテーションができ、新しい知見を発信できる。

VIII 自己研鑽・生涯学習

卒業生は：
生涯にわたり自ら学ぶ態度をもち、自己研鑽を続けることができる。

1. 自己主導型学習により課題を設定し、その解決のために正しく情報を検索し、課題解決できる。
2. 自己評価と振り返りを通して生涯学習を継続できる。
3. 現場での実践を通して自己の向上を図ることができる。
4. 探究心、向学心、向上心をもち続けられる。

1年生のカリキュラム

1年生では、外国語、自然科学、人文社会科学などの教養教育に関する科目を学びます。これらの授業は五十嵐キャンパスにおいて、他の学部の学生と一緒に行われます。医学科の必修科目としては「医学序説」で医学科の教授が医学に関するいろいろな話題について講義し、「はじめての医学」では生化学の基礎を学びます。

8月には「早期医学体験実習」で大学病院や地域医療機関で医師という職業の理解、多職種連携、コミュニケーションを学びます。オリエンテーションでは医療人類学的手法での場の観察方法や医療安全、感染管理の基礎について学び、最終日にはそれぞれの経験をグループワークで共有します。

10月からは週1回、旭町キャンパスで「医学入門」が始まります。プロフェッショナリズムを身につけるため、コミュニケーション、医療倫理などを仲間と議論しながら学んでいきます。患者さんの講義、他の専門職種の方によりアクティブラーニングも実施します。

この1年間は、それまでの与えられた内容を学ぶ受験勉強から自律的に学ぶ、仲間と協同学習するという学び方の転換の時期です。クラブ活動やサークル活動、興味があれば研究室での研究を開始するなど、自らの興味を深掘りし、豊かな人間性を養ってほしいと思います。



早期医学体験実習 (early medical exposure)



医学入門

2年生のカリキュラム

2年生になると、いよいよ本格的に医学の専門科目がはじまります。この学年では「解剖学」、「生理学」、「生化学」を中心とする医学の基本となる基礎医学を学びます。これらの科目では、構造、機能、物質、遺伝子などさまざまな視点からわたしたちの「からだ」を学んでいきます。医師に必要な医学の基礎となる知識を修得する重要なカリキュラムです。

医師になるには医学の知識だけでは足りません。「倫理観と人間性」ではコミュニケーション、行動科学などを学び、「基礎臨床統合」では、基礎医学が臨床医学とどう結びついているのか臨床医の先生の講義で体感します。「早期地域医療体験実習」では、地域の様々な医療ニーズや多職種について実習します。高齢者施設、医療的ケア児の施設、特別支援学校、障がい者就労支援施設などで、障害や疾患と共に、地域で生活をするとはどういうことなのかを学びます。



生理学実習



「人体の構造と機能」組織学の顕微鏡実習

学生からの一言

医学科生の1年次と2年次の授業や生活

中島 福太郎



1年次は基本的には他学部同様に教養科目を学びます。私が1年生の時の授業は、コロナ禍の影響で多くがオンラインで実施されましたが、英語、第二外国語、体育、実験などは対面授業が行われました。特に対面授業ではグループワークが多く、新しい知り合いを増やす良い機会となりました。また、他学部の学生もいる授業もあり、交友関係を広げるチャンスでもありました。1年生の間には、授業や部活などを通じていろいろな人たちと関わることができます。特に部活は、学部や学年を超えた人々と出会う良い機会でした。友人や先輩との関わりは、大学生活を充実させるだけでなく、勉強や将来のキャリアにも良い影響を与えることが多いです。入学初期では、部活の新歓で多くの人と知り合うことができるため、交友関係を広げながら自分に合う部活を探してみることをお勧めします。

また、多くの先輩から言われたことですが、3年生になった今改めて思うのは、1年生の時にたくさん遊ぶべきだということです。2、3年生になると勉強量が

増え、1年次とは比べものにならないほどの量をこなす必要があります。空きコマや全休が多い1年生だからこぞできることはたくさんあるので、色々なことに挑戦してみることをおすすめします。

2年生になると、勉強が一気に難しくなります。多くの学生が「2年生が一番大変だ」と言います。特に暗記が多くなり、授業内容も専門的になるため、その場で聞くだけでは理解が追いつかなくなります。予習をして授業に臨むことが非常に重要になります。(私は予習していなかったで痛い目を見ました…) 個人的には、2年生で一番大変だったと感じた授業は肉眼解剖実習でした。長い日だと一限から四限まで週のほとんどを占めることもあり、体力的に非常にきつかったのを覚えています。また、体力的な負担だけでなく、実習で疲れ果てて帰る毎日であるにも関わらずテスト勉強もしなくてはならないという精神的なプレッシャーも大きいものでした。しかしその一方で、実際に人体を扱うことで、教科書ではわからない微細な構造や個人差などもしっかり確認することができ、学びの深い有意義な実習であると感じることができます。

総じて、大学生活は自分次第でいかようにも充実させることができます。勉強で大変な時期もありますが、その分楽しいこともたくさんあります。受験勉強の先で明るい大学生活を送ることができるよう応援しています。

新潟大学の医学部の特徴

新潟大学は医学研究が非常に盛んな大学です。つまり最先端の医学のワクワクする話を授業で聞くことができます。新しい知見がどう作られてきたのか、またどうやっていくかを学べば、膨大な医学の勉強が本当に楽しくなります。楽しそうに研究している多くの先生と早くから接することができることは皆さんの財産になるでしょう。

そして、新潟大学は海外志向の強い大学です。本格的な英会話のコースへ昼休みに無料で参加できます。そうして学んだ英語を使う場として夏休みに10日程度の交換留学や、8週間の研究留学、

4週間の臨床留学など様々なプログラムが用意されています。USMLEというアメリカの医師国家試験のstep1にはここ数年で18名が合格しています。自主的な勉強サークルがあり、仲間と共に海外を目指せます。

もちろん、新潟大学は地域医療も大事にしています。医療と地域社会とは切り離せません。地域と医療をまるっと学ぶためのプログラムが低学年からいくつも用意されています。将来どこの地域に行っても、そこで何が課題なのかを抽出する能力がとても大事なのです。その能力を鍛えるのに、新潟という地域；城下

町あり、農村あり、工業地帯あり、過疎地域も都市もある、多様な場がとても大事です。

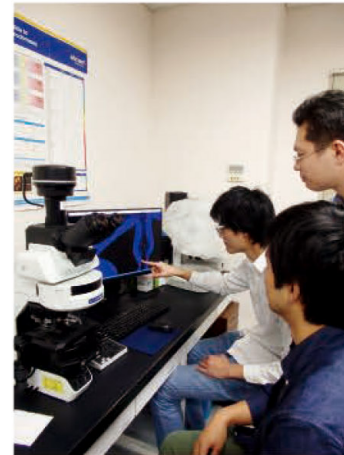
そして医師としてのプロフェッショナルリズム醸成のため、コミュニケーションの演習に非常に力を入れています。知識はAIが提供してくれても、それを説明する、患者さんに寄り添う、多職種で相談するコミュニケーション能力が医師にはますます求められます。時代の変化に対応できる医師養成を新潟大学はおこなっています。

3年生のカリキュラム

3年生の前期は、臨床基礎医学として、薬理学、病理学、免疫学、ウイルス学などを中心に学びます。2年生で学んだ「正常なからだ」についての知識を基盤として、これから学ぶ臨床医学の基礎として、病気のメカニズム、治療のメカニズムを学んでいきます。地球で暮らす我々は気候変動などの「環境」にも左右され、「環境医学」も学びます。このような臨床基礎医学と臨床医学を統合できるように、全国の大学の中でも早い時期からシミュレータを活用した臨床技能教育を行っています。



心臓聴診のシミュレーション実習



医学研究実習

1年生、2年生に引き続き、コミュニケーション、医療倫理、行動科学などプロフェッショナリズムにつながる科目も学びますし、医学英語も継続して学びます。

3年生の後期からは、「臓器別統合コース」に入ります。これは、2年生から3年生前期までに学んできた基礎医学の知識を生かして、具体的な病気について臓器別に順々に学修していくコースです。それぞれの臓器の構造と機能を復習し、その臓器で起こる病気の病態、診断、治療について統合的に学びます。このコースでは、主として小グループ学習形式が採用され、問題基盤型学習(PBL)を行います。



医学研究実習の成果を学会形式で全員が発表

3年生の後期のメインイベントの一つは、「医学研究実習」です。ここでは学生が自主的に選択した基礎医学系あるいは臨床医学系の研究室で、それぞれ個別に2か月間実習を行い、最終日に自分の研究成果をポスターを用いて発表します。普段は経験できない実験などの体験を通じて、自ら問いを立てること、それを解決する方法を探すことなど研究マインドを養います。臨床医になるにも研究マインドは重要で、新潟大学はこの実習をとっても大事にしています。

4年生のカリキュラム

4年生の前期も「臓器別統合コース」が続きます。これで一通りの病気の知識を身につけたこととなります。また、この時期に並行して「公衆衛生学」を履修します。

4年生の後期になると、「臨床実習入門」が始まります。ここでは、患者さんに接するための実技、すなわち臨床技能と態度をさまざまな方法で学修します。その修得度を評価する目的で「客観的臨床能力試験(OSCE)」を受験します。また、臨床の現場に出るための知識が備わっているかどうかを評価するために「コンピュータ医学試験(CBT)」を受験します。これらの試験に合格すると白衣式で修了証書を授与されて、臨床実習への参加が許可され、「臨床実習I」が始まります。



4年次採血実習

学生からの一言

医学科の 学習内容について 村中 慶太



みなさん、はじめまして。医学科案内を手にとっていただきありがとうございます。

私は今医学科5年生であり、振り返って主に3年生の11月から始まる臨床の授業や4年生にあるCBT、OSCEを述べさせていただきます。

まず臨床系の授業と聞いて何を思い浮かべられますか。おそらく、みなさんはいわゆる診療科の学習内容を思い浮かべるでしょうし、実際その通りです。ですが、診療科といっても普段の生活に馴染みあるものから馴染みのあまりないものまであり、幅広く各内容を学ぶこととなります。例を挙げると、消化器内科や整形外科、眼科などの診療科以外にも、腫瘍を学ぶ腫瘍内科や手術時の管理を学ぶ麻酔科などをおよそ1年かけて学んでいきます。ご想像の通り、とても楽しいですし低学年の学習内容がある意味で結実する時だと思います。

CBTとOSCEはあまり聞いたことがないと思います。この2つは私たち医学生が病院など実際の現場で学習を行う臨床実習を行うにあたり、本当に現場で学んでも良いか確認する試験です。そのうちCBTは知識面の確認として学習してきた内容を問い、OSCEは実

技面の確認として実際の手技や診察技術を問うものとなっています。これらに受ければ晴れて臨床実習を行う許可を授けられ、白衣式に参加し、4年生の1月からおよそ1年間臨床実習を新潟大学医歯学総合病院で行うこととなります。私も昨年受験しましたが、直前期はかなり緊張し、また何度復習をしたり問題を解いたりしても気が晴れなかった記憶があります。

そして今、私は臨床実習を行っています。将来医師になる上で心の底から新潟大学は非常に良い環境だと毎日感じています。それは単に診療科の先生が信念を持ってご指導なさっているのみならず、新潟大学医学部医学科自体の歴史が長いこと、新潟県に医学部医学科が1つしかないことなどにより教育体制が整っていること、新潟県全体が教育に力を入れていることなどが挙げられると思います。

最後になりますが、学生の皆さんへ。これを手に取られ読んでいる方は医学部入学や将来の職業として医師を考えていらっしゃると思います。医学部入学は大学受験において難易度が高く、時に涙を溢し時に辛くなる日々もあると思います。できない自分に腹が立ちますし、他人と比べて落ち込むこともあると思います。私も実際そうでしたし、私の友人もそうでした。ですが、日々少しずつでも前に進むことを心がけてください。私が皆さんへ伝えたいことは、昨日の自分を常に超えるようにしてください。

みなさんの人生がより良いものとなることを祈っています。最後まで読んでいただきありがとうございます。

CBTとは.. (コンピュータ医学試験)

実際の医療現場で患者さんに接する(臨床実習)前に、基礎医学と臨床医学の基本的知識を修得しているかどうかを評価する試験です。コンピュータを用いて全国で統一された試験を行います。CBTとOSCEの両方に合格すると、臨床実習に進むことが許可されます。

OSCEとは.. (客観的臨床能力試験)

医学生が患者さんに接する前に、患者さんと接する態度と診察時の基本的な知識・技能を身につけたかどうかを評価する試験を客観的臨床能力試験(OSCE)といいます。これにより医師と患者さんとの良好な人間関係を構築し、全人的医療を行える良い医師となる学生にふさわしいかどうかを評価します。外部の医学部教員が新潟大学の教員と一緒に厳正な評価を行います。

5年生と6年生のカリキュラム

科学性と人間性を兼ね備えた医師をめざして



診療参加型臨床実習



外来での臨床実習



地域医療体験実習

5年生でも引き続き「臨床実習Ⅰ」を行います。1週間～3週間ずつ、大学病院の各科を10人前後のグループで順にまわります。その中で、患者さんに接したり、講義や小グループ学習に参加することにより各科のさらに深い知識を修得します。

5年生の後期から始まる「臨床実習Ⅱ」はさらに本格的な実習になります。診療チームの一員として参加する診療参加型臨床実習で、大学病院や関連病院での実習を4週間ずつ計24週行います。

その後、卒業試験があり、合格した者にのみ卒業資格、つまり医師国家試験の受験資格が与えられます。2月に2日間医師国家試験が行われます。卒業時に卒業試験のほか臨床スキルを評価するために「診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験 (Post-CC OSCE)」を行っています。

Post-CC OSCE

6年次に診療参加型臨床実習を修了した後で、医学生として卒業時まで獲得すべき技能、態度、知識のうち主に技能と態度を確実に修得しているかどうかを評価する診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験のことです。全国で統一された試験問題と新潟大学独自に作成した試験問題の両方が出題されます。



万能の天才レオナルド・ダ・ヴィンチの名を冠した手術支援ロボット「ダヴィンチ」。新潟大学ではハイテク技術導入にも常に積極的に取り組んでいます。



学生からの一言

少し未来の話

藤井 愛



皆さんはじめまして。時が経つのは早いもので、私が本学医学部医学科に入学してもう6年目になります。皆さんからすると、少なくとも6年後のステージの話になるかもしれませんが、ぜひ6年生になったご自身の姿を想像してお読みいただくと幸いです。

医学科6年生では、診療参加型臨床実習に位置づけられる臨床実習Ⅱが始まります。5年次の臨床実習Ⅰでは見学していた手技を実際に自分で行ったり、より長期に患者さんを担当して診療計画を立てたりして、実臨床により近い形で実習させていただくこととなります。具体的な実習内容のイメージが湧かない方も多いと思いますが、問診、身体診察(聴診、触診など)、回診とカルテ記載、手技(静脈路確保、採血、縫合など)等が想像しやすいかと思います。実習期間としては、大学病院とその関連病院に交互に4週間ずつ赴き、6クール計24週が用意されています。

この半年間は驚くほどあっという間です。5年間学んだ知識を振り返りながらも、実臨床で多く遭遇する「教科書通りにはいかない」症例、状況を経験し、あるいはまだ教科書に載っていないような「現場の最先端」の治療方針を知り、日々新しい学びを得る生活です。大変そうに聞こえますが、日々を辛く感じることはありません。むしろ、今までの5年間で詰め込んできた知識を初めて能動的に活かすことができる機会であり、毎日が楽しいです。低学年で学んだ基礎医学の知

識も、臨床講義で先生方が教えてくださったエッセンスも、どれもがいかに大切に、自分たちの礎となるものであったのかを身にしみて感じます。また、臨床実習Ⅱでは4週間同じ診療科にお世話になるため、担当患者さんだけでなく先生方もより深く関わることができます。チームの一員である実感や責任感も生まれますし、何より知見と視野が広がります。これまで学生の視点で見ていた世界が、社会が、大きく変わって見えることもあるでしょう。

ここまで読んでみて、いかがでしょうか。少しでも皆さんが医学部を知るきっかけになれば、あるいは受験を考えている方にとって自分の将来像構築の一助になれば幸いです。そして真面目な話はたくさんしましたから、最後に学生生活についてお話ししたいと思います。医学生といえども6年生といえども、大学生生活はおもいきり楽しむのが良いでしょう。長い人生の中で、これほど多くの自由な時間、友人、そして若さとエネルギーを揃えることができるのは大学生活くらいではないでしょうか。私自身も6年生最後の夏まで部活動を続けています。アルバイトは家庭教師や塾講師、飲食店など色々と経験してみました。新潟大学は縦と横のつながりも深いですから、同期はもちろん、先輩や後輩とも旅行をしたり、飲み会をしたり、夏には海でBBQ、冬にはスノボなど…。言い出せばきりがないほどたくさんの素敵な思い出で溢れています。

今これを読んでくださっている皆さんには、未来への無限の可能性と無数の選択肢があることでしょう。ぜひ新潟大学医学部医学科へいらしてください。かけがえのない出会いと充実した学び、学生生活が待っています。そして皆さんとこの医療の世界で共に働ける日を楽しみにしています。

充実したサポート体制

新潟大学の入学者は県外出身者が7割です。慣れない土地での一人暮らしで初めは様々な不安もあるかと思いますし、勉強につまずくこともあるかもしれません。でも心配しないでください。入学した皆さんを全力でサポートするために、様々な組織があります。まずは医学教育センターです。医学教育専門家の教員が学びについて全面的にサポートしています。そして、心の悩みについては医学教育センターの精神科専門医が対応しており、誰でも気軽に立ち寄りもらえ

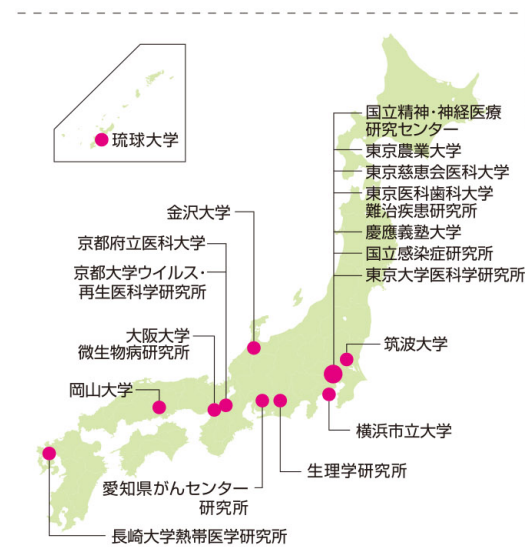
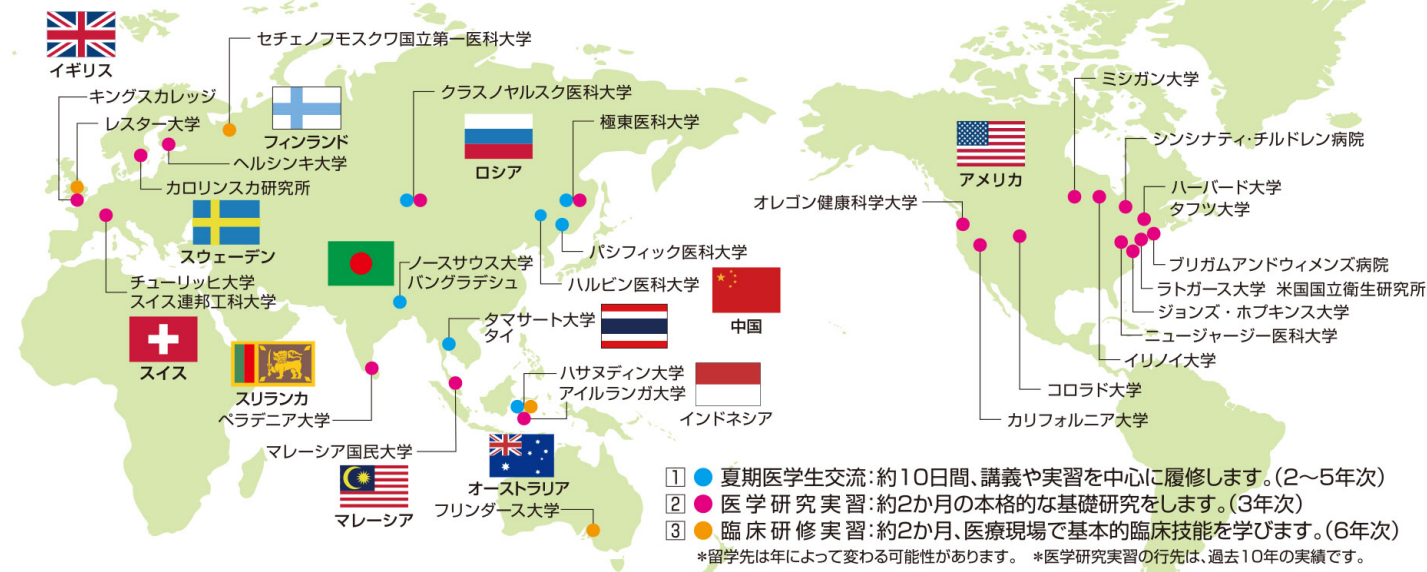
るようにしています。他に保健管理センターという部署でも様々な悩みをじっくり聞いてくれます。特徴的なのは懇話会というシステムです。1学年3-4人ずつ、6年間で20名強のグループが作られていて、担当教授とお食事会をしています。先輩学生からいろんな話が聞けたり、教授の先生ともじっくりお話しできます。部活動以外でもいろんな人間関係が作れるように、相談窓口があるようにして、皆さんの大学生活を支援しています。

学外交流

医学科では、世界各地の大学・研究施設と交流を深めています。

学生には、在学中に様々な留学の機会が提供されます。

アメリカやイギリス、スイス、スウェーデン、ロシアなどの欧米各国から、インドネシア、タイ、中国やマレーシアをはじめとするアジア諸国など、新潟から国内外の大学や病院、研究所との双方向の交換留学が盛んに行われています。



先輩からのコメント

私達は「医学研究実習」プログラムでフィンランドにあるヘルシンキ大学に派遣して頂き、約2ヶ月間にわたって貴重な経験を積むことができました。ヘルシンキ大学のHelsinki Institute of Life Science (HILIFE)内にあるNeuroscience Centerの研究室では、神経発生や脳腫瘍のハイレベルな研究が活発に行われていました。最初は研究テーマを理解することや実験を正確に行うことも困難でしたが、派遣前トレーニングで基礎的な実験技術を身につけてから渡欧したことや、メンターの先生方の温かい指導により徐々に慣れ滞在中は思う存分研究を楽しむことができました。HILIFEには多数のラボがあり、オープンラボシステムを採用し研究機器を共通利用しているため、他のラボのメンバーと話す機会もたくさんありました。多くの国から集まった研究者の方々が、英語を共通語としてコミュニケーションを取り合い、活動している姿からたくさんの学びを得ることができました。休憩時間に様々な国籍の人たちと集まり、国や文化の壁を越えて親睦を深められたことも非常に貴重で、楽しい経験でした。夏のフィンランドは気候もよく、周辺の環境がとても美しく、サウナやサーモンを毎日心から楽しんでいる姿を見て、人生観が変わるほどの非常に貴重な滞在でした。

[根本映、島津花夏]



医学科の国際交流について興味のある方は、ぜひホームページをご覧ください。
<http://www.med.niigata-u.ac.jp/g-medex/>



さまざまな医学の道

新潟大学では高度先進医療や先端医学研究にとり組んでいます。

こうした環境の中で卒業後は臨床、研究、教育、行政とさまざまな医学の道に進むことができます。



ドクターヘリ運航



消化器内視鏡処置

広がる先進医療

新潟大学医歯学総合病院



進む先端研究

新潟大学大学院医歯学総合研究科



医療の現場で今を生きる卒業生たち

困難な道の数だけ喜びや感動がある…
理想に向かって奮闘中の卒業生からのメッセージです。

基礎研究者の幸せ…別れ道の連続

宮村 達男

国立感染症研究所 名誉所員



1970年新潟大学医学部卒業。
1976年よりアメリカNIH留学、UCSF, Chiron社Visiting Scientistとして、2020年にノーベル医学賞生理学賞を受賞したマイケルホートン博士とC型肝炎ウイルスの発見プロジェクトに従事、多大な貢献をされました。
2006~2010年、国立感染症研究所 所長。
2014年、瑞宝重光章受章。

私は、戦争末期、新潟で生まれ、日本海の水で産湯を使い、波の音と松林をわたる海風を子守歌として育った。新潟大学教育学部附属小、中学校、新潟高校で学んだ。家の裏はすぐ松林とグミ林で、海岸まで広い砂浜が広がっていた。多くの級友達が遊びに来て松林や海岸でひたすら遊んだ。皆おっとりとして、人のいい子ばかりだった。私はこの立地条件と環境のおかげでいつの間にか、小さいグループができるとそのリーダーに祭り上げられ、それを嫌とは言えない妙な性格を醸成していった。

いろんな事情があって新潟大学医学部に入って(昭和39年)、考えること多々あったが、考えがまとまる間もなく大地が大きく変動し(新潟地震)が起こり、大学は休講が続いた。あまり深い考えもなく、成り行きでヨット部に入った。これは大正解だった。全学部の個性的学生の集合体であった。その中で私は、遅れてきた部員で、非力でセンスもなく、勝負師根性もない劣等部員であった。だがひと夏の佐渡両津での合宿、そして春までき3月の内野合宿での遭難で頭角を現した。医学部の先輩達が皆、そろって優等生であることを知って、そのことを2学年上の下条文武先輩(元学長)に確認したら、〈ヨットは体力のみならず瞬発的、持続的思考力を養えるので必然的に学業成績が上がるのだ〉とのことだった。当時、新大医学部は東医体では無敵であった。私は、新人の頃はよく走って、ヨット部主将に祭り上げられた。ところが主将になったとたん伸び悩んだ。色んなことを過剰に意識し、チームは負けが込み、関東インカレでも、金沢大定期戦、東医体でも成績が下降していった。個人的にも国体の県予選でも最終日までトップを取りながら、最終レースで考えすぎて失敗し、下級生に敗れ、念願の国体出場はかなわなかった。今でも夢に出てくる。しかし、総じてヨット部の活動は実に痛快で、尊敬できる友人達に恵まれ、その後の人生の財産となる経験を数多く得ることができた。

卒業する2年前にインターン制度が廃止になり、全国的に大学紛争が燃え盛った。卒業、何科に進むかは最初に直面し

た人生の大きな別れ道だったが、結論を先延ばしして、将来の可能性をできるだけ広く保持しておこうと思い、さらに何科に行くにしても基礎的なバックグラウンドが必要と、厚生省の国立予防衛生研究所(現国立感染症研究所)村山分室でたまたま定員が一つ空いていた腸内ウイルス部に入れて戴いた。腸内ウイルス部の主要業務はポリオワクチンの検定であった。腸内ウイルス部では久しぶりの、医学部新卒部員だったので先輩方に大層期待された。一方検定業務は正直、単調でどこに新しい発見があるのかとも思った。

ある時、部長によばれ、ポリオウイルスの中和抗体測定のための国内標準血清の作成を命じられた。こうしたReference, Surveillance業務は感染研の持つCDC機能の大切な要素である。ウイルス学の基本技術を学ぶには絶好の機会であり、それぞれの分野のエキスパートの先輩達が格別丁寧に教えてくれた。予定通り半年かけて作り上げ、WHOの大御所Perkins先生に報告し、認定を受けた。原著論文になるような仕事ではなかったが、ウイルス学会の雑誌「ウイルス」に投稿したら、学会より封筒が届き開いたら一万円入っていた。私は、名と実と富を得て、徐々に徐々に感染研、悪くないと思うようになっていった。というよりいつの間にか、もう後には引けず、つぶしも効かず前へ前へと進む以外なかった。仕事は絶えず、何らかの知的好奇心を満たす対象であり、面白くて仕様がなかった。

私にも誰にでもある人生の別れ道が数多くあった。臨床研修を一切経ない卒業直接の感染研入所をはじめとし、師一人、弟子一人のTakemoto研へのNIH留学、ベンチャー企業先駆けのChiron社でのC型肝炎ウイルス遺伝子クローニング、厚生省本省の併任役所勤務、WHOのポリオ根絶計画運営委員など、その都度、成り行きで選択したような気がしていたが、結果的にはいつも結論を急がず、より困難な人のやらない道を好んで選択してきた。その都度尊敬すべき師、同僚、後輩に恵まれたのは幸せの極みであった。

基礎と臨床の垣根を超えた医師・Physician-Scientistを目指して

新井 文子

聖マリアンナ医科大学 内科学(血液・腫瘍内科学)教授
東京医科歯科大学大学院 歯学総合研究科 血液疾患治療開発学 教授



1988年新潟大学医学部卒業。東京医科歯科大学医学部入局、2019年より現職。
2人のお子様の出産、育児を経て、血液内科医、Physician-Scientistとして、特にEpstein-Barrウイルスが原因で起こるリンパ球の腫瘍の原因がSTAT3の異常であることを解明され、さらに新しい治療法の開発に取り組んでいらっしゃいます。

皆さんは、医師にどのようなイメージを持っていますか？
今、テレビ等で新型コロナウイルス感染症患者を治療する医師の活躍が大きく報道されています。現場の第一線で、患者を救う、「臨床医」です。その印象が強いのではないのでしょうか。あるいは、フラスコやピペットを片手に薬を開発する「基礎研究医」を思い浮かべる方もいらっしゃるかもしれません。私は自分自身を、「Physician-Scientist」と考えています。基礎と臨床の垣根を超えた「医師兼研究者」、という意味です。一体、どんな医師を言うのでしょうか？この場を借りて紹介したいと思います。

私の専門は、血液の病気、特に白血病や、悪性リンパ腫といった、血液のがんを扱う血液内科です。私が医師になった頃は、ちょうど白血病に対し、骨髄移植が行われるようになった時期でした。新しい治療で多くの患者が治る！大きな期待を持ち、初期研修終了後、私は血液内科医となることを選択しました。

意気揚々とその道を歩み始めたのですが、そこで目の当たりにした現実には厳しいものでした。骨髄移植の恩恵を受けるのは一部の患者さんにすぎず、それどころか、未だ有効な治療薬の無い病気が、想像以上に多かったのです。大変な思いをして病氣と闘う患者さんを前に、病氣の原因の解明と治療薬の開発の必要性を改

めて感じた私は、大学院に入りました。そして細胞の中の分子同士の働きとその異常のしくみを解明する学問である分子生物学を学びました。この経験により、細胞の中でどんな分子が、どのようなネットワークを作り、どんな働きをしているのか、そして病氣の原因となる分子は何か、明らかにする手段が身につきました。

大学院を修了し、臨床医として再び活動を始めた時、一人の患者さんに出会いました。彼女の病氣は慢性活動性Epstein-Barrウイルス(EBウイルス)感染症、略してCAEBV。ほぼすべてのヒトが感染しているEBウイルスが原因で起こるリンパ球の腫瘍です。稀な病氣のため、研究が進まず、有効な治療薬もありませんでした。さらに、患者さんは日本をはじめとする東アジアに集中しており、欧米ではほとんど見られません。日本人医師である私はこの病氣を解決する責務がある、と強く思いました。病氣の原因を解明するためには、患者さんの細胞を調べる必要があります。患者さんにその話をしたところ、「ぜひ私の細胞を使ってほしい」と、研究のために血液細胞を提供してくれたのです。何人もの患者さんがそれに続きました。そして、その貴重なサンプルを解析した結果、様々なことがわかりました。その一つが、STAT3というたんぱく質の異常です。それを狙い撃ちにする治療薬で、CAEBVはよくならないか？現在、その研究を進めています。近い将来、必ずCAEBVのすべての患者が治るようになるかと信じています。

Physician-Scientistとは、臨床医、基礎研究者の両方を兼ね備えた医師です。その強みは臨床医の視点から現場で真に重要な問題を洗い出すことができ、それらを基礎研究者の技術と知識で実際に解決できることです。目の前の患者さんの問題解決はもちろん、未来の治療へと発展し得る非常にやりがいのある仕事です。医学の進歩は目覚ましいものがあります。しかし、残念ながら、臨床の現場では、まだまだ解決されていない問題が数多くあります。私は、「その答えをだし、患者さんに、社会に還元する」を目標とし、これからも、Physician-Scientistとして、診療、研究を行っていきます。皆さんはどのような医師を目指しますか？ぜひ一緒に頑張ってみませんか？

医学部を目指すみなさんへ

篠原 陽介

新潟第一高等学校卒
新潟大学歯学総合病院 初期研修医



新潟大学医学部医学科卒業後1年目で、現在は新潟大学歯学総合病院の研修医として勤務しています。篠原陽介と申します。

私は元々、病氣で悩み、苦しむ人々を救いたいと考え、医師の道を進むことを志しました。そして将来は新潟の地域医療に貢献したいと考え、新潟大学医学部医学科に2018年に入学しました。

同学年と切磋琢磨しながら学んだ6年間は、今医師になった自分にとって大事な宝物となりました。OSCE(客観的臨床能力試験)や卒業試験、国家試験など、医師になる上で越えなければならない壁に何度もぶつかりました。その状況下においても、同学年で一丸となって乗り越え、研修医として今、実りある研修をさせていただくことができています。

新潟大学医学部医学科で6年間勉強させていただいて私が感じたことは、医師のキャリアの幅の広さでした。私が今まで実習先や授業でお会いした先生方は、臨床が主体の医師、研究が主体の医師、教育学を学び現場の指導に生かす医師、AIを開発し診療支援ツールを開発する医師など、様々でした。

医学科にこれから入学される方へお伝えしたいのは、目の前に転がっているきっかけを大事にしてほしいということです。実習先、セミナー、基礎研究など、学習のツールがたくさんある中で、みなさんが将来医療に対してやりたいことが自ずと見えてくると思います。きっかけがあれば、積極的にそれを掴みに行く姿勢こそ大事なものであると私は確信しています。私は4年生の時に参加したセミナーがきっかけで、総合診療学講座の先生方にお会いし、今の自分のキャリアに大きな影響を与えました。きっかけを無駄にせず、掴んだ瞬間、みなさんの今後の人生に良い影響を与えると私は確信しています。

医師を志しているみなさんへ、ご自身の健康にお気をつけて受験勉強をがんばってください。今とでもつらく、息が詰まるような環境にあると思います。でも、それを乗り越えれば、必ずその苦勞以上の楽しみ・高揚感を味わうことができます。いつの日か、今受験勉強をがんばっているみなさんが医師になり、私たちと一緒に働ける日を楽しみにしています。

医学部医学科の年間行事

令和6年度 新潟大学入学式

- 入学式
- 新入生研修



令和6年度入学式

4 APR

新入生研修

- 解剖体慰霊祭
- 医学大運動会



解剖体慰霊祭

5 MAY

医学大運動会

- 白菊会総会



6 JUN

白菊会総会

- 東日本医科学生総合体育大会結団式



7 JUL

- 東日本医科学生総合体育大会



8 AUG

- クラスマッチ (卓球、陸上)



9 SEP

- 東医体報告式
- 医歯学祭
- クラスマッチ (サッカー、ラグビー)



10 OCT

医歯学祭

- 六送会
- クラスマッチ (バドミントン、バレーボール、バスケットボール)



11 NOV

- 白衣式



12 SEP

白衣式

- 卒業式



3 MAR

令和5年度卒業式

医学科学生のある1日

医師になるための勉強はもちろんですが、部活動やサークル活動に積極的に参加したり、アルバイトも頑張ったりして、充実した日々を送っています。

5年生
K君
の
ある
1日

Morning



晴れた日の自転車は気持ちいい！(大学まで5分)

AM9:00



今日は講義を受けたり、手技を学んだり、もりだくさん。

AM0:00



就寝。明日も元気に頑張るぞ～。

AM11:00

手術見学。担当症例はスライドにまとめて発表します！

就寝。明日も元気に頑張るぞ～。

Lunch

友人と近くの美味しい定食屋へ！いったん帰宅して家で食べることも！

Night

部員や同級生と飲み会へ！お家で料理をすることも！



PM3:00



救急科でドクターヘリについて学ぶ！実物は一層かっこいい。

Evening

実習が終わると部活へGo。楽しく練習頑張る！



興味あるものに熱中し、感動を共に味わう 仲間たちがいます。

好奇心を満たし、豊かな人間性を養う心の交流の機会がここにあります。
新潟大学医学部では全部で33の運動部・文化部・同好会が活動しています。
特に運動部は毎年、東日本医科学生総合体育大会（東医体）で他大学と総合優勝争いを演じています。
文化部・同好会にもユニークなものが多数あります。

- 弓道部
- ゴルフ部
- ワンダーフォーゲル部
- ラグビー部
- スキー部
- 男子バスケットボール部
- 女子バスケットボール部
- 男子バレーボール部
- 女子バレーボール部
- 水泳部
- 軟式野球部
- 準硬式野球部
- 剣道部
- バドミントン部
- 柔道部
- 陸上競技部
- 硬式テニス部
- 軟式テニス部
- 空手道部
- 卓球部
- サッカー部
- 美術部
- 写真部
- オーケストラ部
- コンピュータ部
- ESS
- 茶道部
- 俳句部
- 合唱部
- 軽音楽部(メディックス)
- ダンス部魂舞
- 学友会
- 相撲同好会
- NECST



不安なく大学生活を送るためのQ&A

Q 新潟市って
どんなところですか？

A 新潟市は本州日本海側で唯一の政令指定都市（人口約80万人）で、旭町キャンパスがある中心部には、大型商業施設が建ち並ぶ一方、海、山、川の豊かな自然がすぐそばにある自然と都市が共存するまちです。
東京まで新幹線で約2時間、高速道路や国際空港も整備されており、首都圏をはじめ全国各地へのアクセスも大変よいところです。
また、美味しいご飯やお酒、日本海の海の幸が楽しめるのも大きな魅力のひとつです。なお、新潟と聞くと雪国をイメージされる方も多いかと思いますが、新潟市は海沿いのため雪はほとんど積りませんので、安心してください。



写真提供：(財)新潟観光コンベンション協会

Q 大学はどんなところに
ありますか？

A 新潟駅からバスで15分の位置にある旭町キャンパスは、新潟一の繁華街である古町や市役所といった重要施設まで徒歩で数分という最高の立地条件にあります。

Q お昼ご飯は
どうしていますか？

A 大学構内や周辺には多数の食堂、料理店がありますので、みんな好みの店を探し出して通っています。もちろんコンビニや売店でお弁当を買ってきて講義室で食べることもできます。毎日お弁当を作ってくるマメな学生もいますよ。

Q 生活費が
心配です

A 一人暮らしにはそれなりのお金がかかります。しかし、住居費や物価は首都圏ほどではありません。アパートの家賃の相場は4~6万円くらいです。アルバイトをすることも可能ですし、県や日本学生支援機構による奨学金を入学後に申請することもできるので考えてみてはどうでしょう。

Q アルバイトについて
教えてください

A 家庭教師、塾講師からコンビニ、レストランの店員まで、様々なアルバイトがあります。自力で探すこともできますが、部活の先輩やクラスメイトから紹介してもらうことも多いです。2年生以降は講義がびっしりあるので、アルバイトは夕方以降になる場合がほとんどです。住み込みのアルバイトや昼休みにちょっと行ってくるという変わりダネもあるようですので、いろいろ探してみてもいいですよ。

Q 医学書って
高いんですね？

A 確かに1冊5千円から1万円以上する本も多いです。必要な本を全て買いそろえるのは難しいかもしれません。でも、学生には10%引きで売ってくれるお店もありますし、図書館には必要な本がほとんど揃っていますので借りてみることも可能です。

Q 医学部では勉強が大変で他のことが
何もできないんじゃないですか？

A そんなことはありません。学生の多くが部活動を行っていますし、様々なアルバイトやイベント、もちろん飲み会にも参加しています。新潟大学には医歯学祭や運動会、クラスマッチといった豊富な年間行事もありますので、それを楽しみにしている学生も多いのです。しっかり大学生らしい生活を楽しんでいますよ。でも未成年の飲酒はしないでくださいね。

行事
については
15
ページへ

部活動
については
17・18
ページへ

Q 人体解剖とか血を見たりとか、
少し怖いんだけど……

A 確かに最初はそうかもしれません。でも、実習が進むにつれ段々と慣れていきます。むしろ、解剖実習の後で医者になるという実感や心構えを得ることができたという人が多いですし、手術見学を貴重なチャンスと捉えているのが一般的です。

Q 新潟大学医学部の
特色はなんですか？

A 新潟大学は研究活動が盛んな大学で、低学年から研究室に出入りして論文を書く学生もいます。また海外留学が盛んで、イギリス、中国、インドネシア、タイの医学部に10日程度から3か月まで様々な留学プログラムがあります。語学研修も充実しています。もちろん、地域医療貢献のための臨床実習も充実しています。

Q 部活やサークルには
必ず所属しなければ
ならないのですか？

A 部活やサークルに必ず所属しなければならないという決まりはありませんが、同じ学年の友達だけでなく、他学年の先輩や後輩と交流することのできる良い場となっているため、所属することをおすすめします。いろんな種類の運動部、文化部、同好会があるので、ぜひ自分に合う部活を探してみてください。

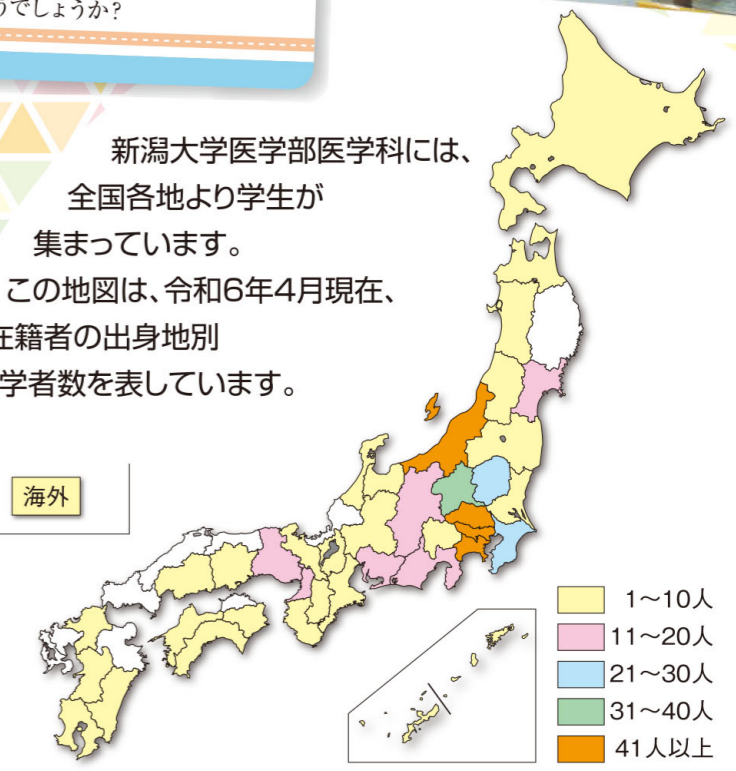


Q とにかく漠然と不安なだけで、
誰に相談したらいいんだろう？

A 大学に入った後でも漠然と不安を感じている人は多いようです。まずはクラスメイトや部活の先輩に相談してみてください。また、懇話会という1年生から6年生までの学生数名ずつと教授1~2名で構成された会もありますので、そこで様々な話をすることもできます。それとは別に「旭町キャンパス医学生支援相談ルーム」や「医学教育センター」もありますので、気軽に訪れて悩み事を相談してください。

サポート
については
10
ページへ

新潟大学医学部医学科には、
全国各地より学生が
集まっています。
この地図は、令和6年4月現在、
在籍者の出身地別
入学者数を表しています。



旭町キャンパス案内

新潟大学には2つのキャンパスがあり、1年次は、主に五十嵐キャンパス、2年次以降は旭町キャンパスで学びます。旭町キャンパスは、新潟市の中心部にあり、設備も充実しています。

赤門(旧制新潟医学専門学校の正門)



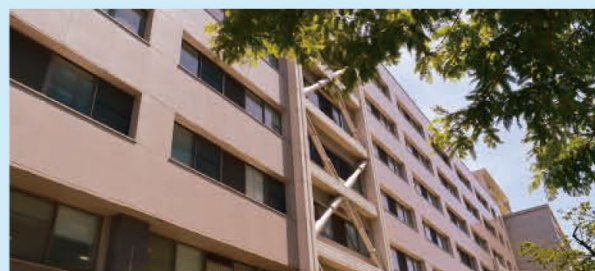
大正3(1914)年に建てられた由緒あるレンガ造りの正門で、登録有形文化財に指定されています。優雅で歴史を感じるので記念撮影に利用する人も多くいます。

新潟医療人育成センター



赤門の奥にある建物で、高度のシミュレータや260名収容のホールがあります。

医学部研究棟

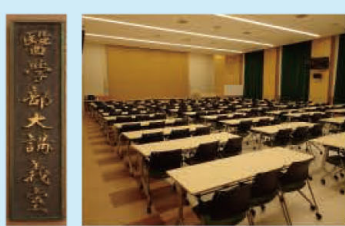


1~7階に各分野の研究室が入っています。2階は病院との渡り廊下でつながれ、人の往来が頻繁です。

東・西講義棟

4つの講義室があり、各学年の講義が行われています。

大講義室



講義だけでなく、いろいろなイベント会場としても利用されます。

学生実習棟

4つの実習室があり、基礎医学系科目の実習が行われています。

メディカルAIセンター (ライフイノベーションハブ棟内)



医療画像を応用した人工知能の開発や精密医療を実現するためのがんゲノムデータ解析が行われています。

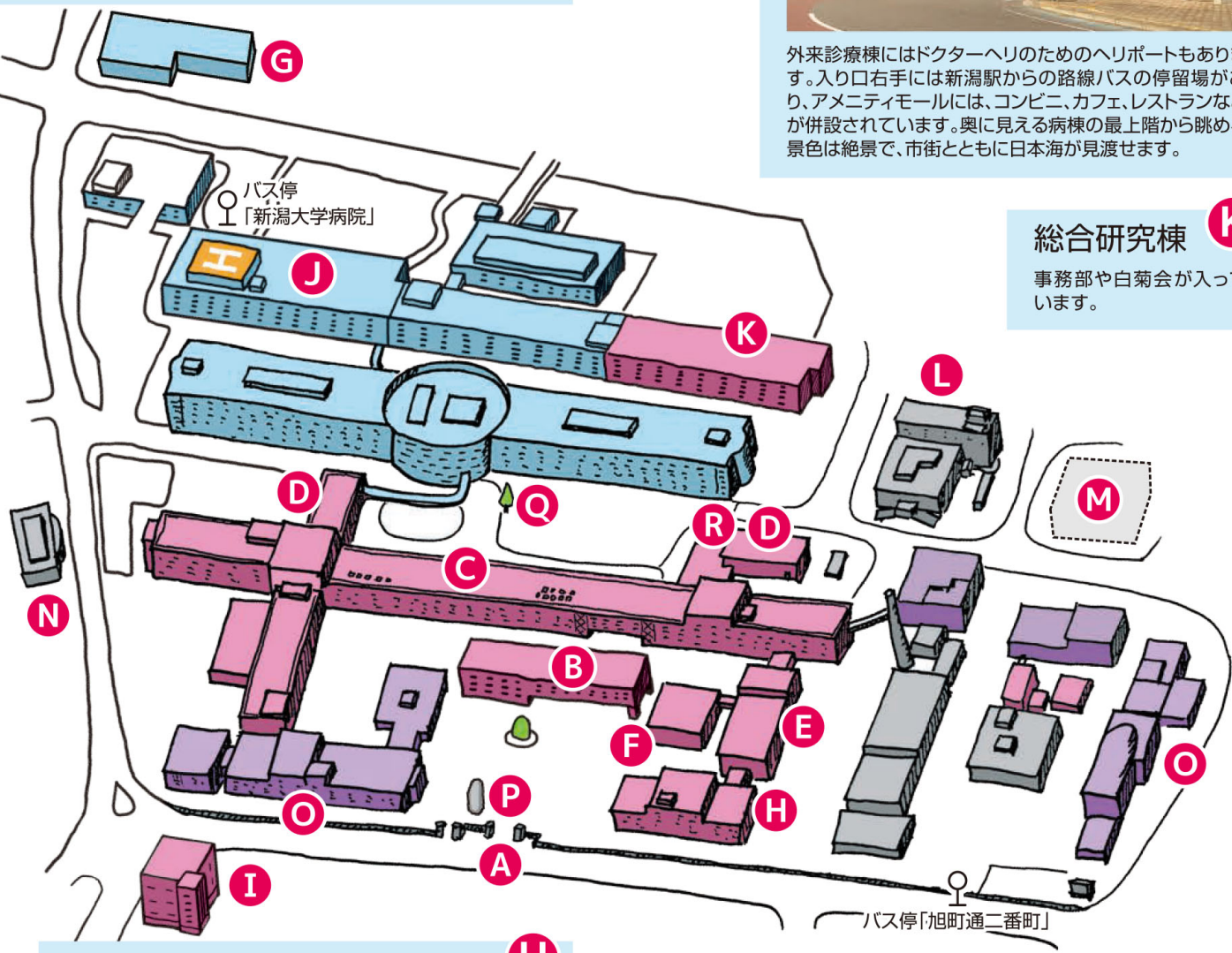
医歯学総合病院(診療棟+病棟)



外来診療棟にはドクターヘリのためのヘリポートもあります。入り口右手には新潟駅からの路線バスの停留場があり、アメニティモールには、コンビニ、カフェ、レストランなどが併設されています。奥に見える病棟の最上階から眺める景色は絶景で、市街とともに日本海が見渡せます。

総合研究棟

事務局や白菊会が入っています。



共同研究棟 (新潟大学医学科研究推進センター)



様々な大型機器(顕微鏡、質量分析、セルソーターなど)の保全・管理と、これらを利用した研究支援サービスを提供しています。1階に第5講義室と学生が自由に使える多目的スペースがあります。

旭町サークル共用施設



(体育館・武道場) 学生の部活動やサークル活動で使用されます。新しい建物で、設備も充実しています。

ヒポクラテスの木



ヒストリーギャラリー



新潟大学医学部医学科の歩みを展示しています。

医歯学図書館(旭町分館)



五十嵐キャンパスの本館と異なり、医学専門書が多くあります。歯学部、保健学科の学生も利用します。

ヒト脳科学・ヘルスイノベーションセンター<仮称>(令和6年度末完成予定)

本学の強みであるヒト脳資源・ヒト脳疾患病態研究を、学内関連分野・参画機関と戦略的連携強化し、ヘルス・ライフサイエンス分野におけるイノベーション創出に資するための複合型産学官連携施設です。

有任記念館(学士会館)



創立75周年を記念して同窓会の寄附により建てられました。同窓会関連のイベント会場として利用されます。

脳研究所

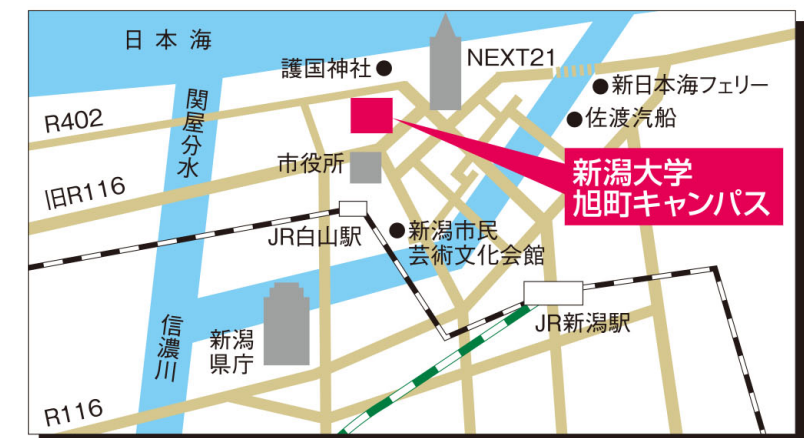


全国で唯一、ヒトの脳専門の研究施設です。外国からの留学生も多く、夏には夏期セミナーが開かれ、全国各地から学生や研究者が多数集まります。

句碑



新潟大学名誉教授、脳研究所初代施設長で、俳人でもあった中田瑞穂先生の「学問の静かに雪の降るは好き」の句碑があります。



JR新潟駅から医学部医学科まで

《バス》新潟駅バスターミナルより新潟交通バスに乗車

- C2浜浦町線「旭町通二番町」下車(所要時間15~20分)バス停より徒歩約3分
- B1萬代橋ライン、W2西小針線、W1有明線、他C3、S5「東中通」または「市役所前」下車(所要時間10~15分)バス停より徒歩約8分
- C8新大病院線「新潟大学病院」下車(所要時間15~20分)バス停より徒歩約1分

《タクシー》JR新潟駅万代口より10~15分